

静岡新聞 2026 年 5 月 27 日 付

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

イラン紛争でさまざまな分野に影響が出てきている。石油は化学製品の原料となるので、その影響の広がりは大い

い。カルビーのポテトチップスの包装は色刷りのものから白黒に変わるといふ。この報道に接した時、石油の影響はそんなところまで及ぼすのかと驚いた人は多かつただろう。包装に色をつける原料である石油由来のナフサの確保に不安があるということ、色をなくそうというところしい。報道によれば、ポテトチップスの原料となるジャガイモの収穫時期は集中するので、その時期に包装資材が確保できなくては困ると考えられたらしい。

ユニットバスなどの供給にもイラン紛争の影響が及んでいる。ユニットバスに利用する樹脂や接着剤などの原料は石油化学製品だ。多様な原材料

サプライチェーン危機 教訓に

料として利用される石油化学製品の一つでも足りなくなれば生産がストップすることになる。

ユニットバスは住宅関連の一部でしかない。住宅やオフィスでは、その他さまざまな所で石油化学製品が使われている。これらの一部でも供給不安が出てくる箇所があれば、それはオフィスやマンションの全体の進捗にも影響が及ぶことになる。東京の帝国ホテルの改築予定が遅れることが話題になっているが、全国の多くの地域で都市開発や住宅開発の予定が遅れることが懸念される。

もう一つ話題になっている事例が、医療用手袋の不足だ。医療機関で使い捨ての手袋が利用されているが、この手袋が手に入らない医療機関が出てくれば、医療行為そのものが停止してしまうことになる。このケースは深刻であるので、政府は備蓄している手袋を放出することを決めたようだ。

以上で取り上げた事例からも分かるように、石油化学製品は実に多くの分野に広がっており、そのサプライチェーン(供給網)に目詰まりが起ころうだと、経済活動に及ぼす影響は甚大なものとなる。政府や業界団体はナフサなどの原料は十分に確保でき

ていると言いが、これはマクロの話だ。末端のマイクロレベルで原材料が手に入らないということはいくらでも起りうる。

1970年代の石油ショックの時、店頭からトイレトーパーや洗剤が消えたことがあった。こうした製品が深刻な不足状態にあったわけではない。手に入らなくなるとどこかで聞きつけた消費者が買いに走った結果、店頭から商品が蒸発してしまったのだ。

こうした商品の流通は血管のような流通網を通じて、末端の消費者に流れていく。どこかで買い急ぎなどが起きれば、結果的に末端のどこかで商品が手に入らないということが起こる。そうした事態がさらに不安をおおることにもなりかねない。

そうした不安を抑えるという意味でも、今回、政府が備蓄から医療用手袋を放出するという措置をとったことは適切な対応であった。また、必要な備蓄を確保してあったということが、緊急放出を可能にした。政府だけでなく、民間企業もいざという時に対応できるような備蓄や在庫を確保することの重要性が増している。今回の危機を教訓として、安定供給を確保する体制の強化を進めてもらいたい。